



RI 会長テーマ

2016~2017 年度  
大船渡西ロータリークラブ会報

# 七福人

会 長 藤原 太伸  
副会長 前野 良夫  
幹 事 浜田 浩誠



会長指針

チーム大船渡西で  
ロータリーを楽しもう

## 例会記録

3月第4週例会 2017年 3月23日(木)

ソング : 奉仕の理想                      ボックス : 32,000円 (報告者 千田喜一郎会員)  
お客様紹介 : マザーリンク・ジャパン代表 寝占理絵様 村上由香里様  
本日出席率 : 61.02% 前回修正後62.71% (メキップ4名) (報告者 佐々木敏彦会員)

### ★ 会長の時間 藤原太伸会長



今日は私の趣味についてお話しさせていただきます。まずは、震災に伴い会社が被災した為、会社・自宅を立根町田谷に移転しました。それに伴い若干では有りますが庭を持つ事が出来ました。その小さい庭を利用して今、ちょっとした家庭菜園をしています。この家庭菜園をやるきっかけは、今は活動をやめてしまいましたが、2003~2004年(水野雅之亮会長)年度に、ロータリー農園を作り、財政的な貢献(こうけん)ばかりでなく『実際に汗を流す』活動をして、社会に貢献しようという活動が有りました。内容といたしましては、(会員の方から畑を提供していただき、食の大切さを肌で体験・実感しようという考えのもと始まった事業であります。栽培している野菜は、大根、白菜、サツマイモ、スイカ、等で秋は、大船渡農業高校インターアクトの生徒や、養護施設大洋学園の子供たちと一緒に収穫活動をし、収穫した野菜は、身障者療護施設や大洋学園にお届けし、会員皆でもおすそわけし、奥様方にも好評でありました。と・・・その時の社会奉仕委員会活動報告書から)

それまで園芸・菜園にはまったく縁がなかったのですが、このロータリー農園活動をしてみて、最初は大変だったのですが、思ったよりも面白かったので、それからちょっとずつはまってしまいました。野菜は、苗から育てる野菜もありますが、醍醐味は何と言っても種から育てる野菜。芥子粒みたいな小さな種を最初に見たときは「本当にこの種がああの野菜になるのか？」と不思議に感じたものです。ところが、袋に書いてある説明のとおり種をまくと、ちゃんと発芽します。当たり前のようにすけれど、発芽したときの感動といったありません。それを手塩にかけて育てる。これまで、うまくいったものもありますし、そうでなかったものもあります。しかし、実がならなかったものは1つありません。食べてみたらおいしくなかったということはありませんが、とにかく収穫はできます。そして、うまくいかなかったものには、ちゃんとした理由があることも後から勉強してわかりました。「よし、来年はもう一度種をまいてリベンジしよう」という気持ちに自然なるものです。これって、考えてみると仕事と同じなんじゃないかなと、気づきました。家庭菜園の楽しみ、経験(作業改善・あきらめない気持ち)を、仕事にも生かしたいと思っています。

話は変わりますが、

2002~2003年度ビチャイ・ラタクルRI会長テーマ「慈愛の種を播きましょう」と言うメッセージ有りました。ちょっと紹介させていただきます。

#### 1・自分のクラブに慈愛の種を播く

良いクラブの親睦とは、会員同士が相手に対して示し合う、慈愛と関心の上に成たつものです。あなたは同僚ロータリアンについてどれだけよく知っていますか？もっとよく知ろうと努めてみましょう。相手の家族のこと、仕事のこと、また相手の希望や夢について、もっと学びましょう。あなたのクラブに温かい歓迎の

雰囲気があれば、専門職や管理職の新人を連れ、今の会員たちを巻き込んで、これを活性化することが出来ます。強力なクラブ奉仕と言うロータリーの基本原則を復活させることによって、ロータリーの原点に立ち戻りましょう。

## 2・地域社会に慈愛の種を播く

これは、クラブ会員の知識、技能、個人的興味を十分に活用し、野心的な奉仕プロジェクトを開発することによって出来るでしょう。そのような意義深いプロジェクトを通じて、ロータリアンはクラブ活動に慈愛という個人的スタンプを押す事が出来ます。そしてまた、それがロータリー奉仕活動の価値を十全に発揮することにもなります。私たちの播いた種が私たちの地域社会で育ち始めにつれて、他の地域社会も私たちの尽力に与りたいと願ってくるでしょう。そしてロータリーもまた成長してゆくのです。

とのメッセージでございました。

種をまくつながりで紹介させて頂きました。これからも会員皆で色々な奉仕の種を播き、花咲かせていきたいと思っておりますのでご協力宜しくお願い致します。 以上 会長の時間とさせていただきます。



### ◆ 第2770地区第1グループからの支援金を 非営利活動法人マザーリンク・ジャパン様へ贈呈 ◆

寝占代表よりお礼と、不登校児のため「僕らの学校を創ろう！」プロジェクトのクラウドファンディングへの協力のお願いがされました。

## ◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆

1 大船渡東高校より 入学式の案内が届いています。

日 時 4月7日(金) 9時45分来賓入場 場 所 東高体育館 出欠締切 3月31日

2 RIより アトランタ大会の信任状と投票代議員カードが届いています。

3 25日(土) 防水協会様より申し出の桜の植樹を行いますので、多くの会員さんの参加お願い致します。

時 間 10時～ 場 所 赤崎町字沢田 JA大船渡購買センター隣り

4 ロータリー囲碁同好会より 第18回ロータリー国際囲碁大会の案内が届いています。

日 時 6月3日～4日 場 所 台湾 桃園市

参加料 15,000円 締切り 5月20日

## ◆◆◆ 委員会報告 ◆◆◆

### ★ 紀室綾子新世代委員長

東高校 IAC3年生送る会に大勢参加頂き、また、休石会員のおうちの方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。ご報告とお礼が遅れ申し訳ありません。

### ★ 木下彰則環境保全小委員長

本来ならば本日例会終了後、育みの像清掃となっておりますが、芝もまだ生えてきておりませんので中止と致します。



## ◆◆◆ 本日のプログラム ◆◆◆

フリーアワー : 野村朋員会員 卓話

3月20日(月)の気仙広域環境未来都市シンポジウムでのパネリストとしてこれまでの取組みを報告した内容についてお話しします。

### 1. 環境未来都市とは? 以下、環境未来都市ホームページより抜粋

内閣府が進めている構想で、平成21年6月に閣議決定された「新成長戦略」の21の国家プロジェクトの一つであり、平成25年6月に閣議決定された「日本再興戦略」においても「国家戦略特区の実現」の中で継続的に推進していく施策として位置付けられているもの。今回で節目だが、何等かの形で継続はするとの内閣府の方のお話でした。

環境未来都市とは、環境や高齢化対応などの課題に対応しつつ、持続可能な経済社会システムを持った都市・地域づくりを目指す構想。環境や高齢化対応など人類共通の課題にチャレンジする都市として選定された環境未来都市では、環境、社会、経済の三つの価値を創造し続ける「誰もが暮らしたいまち」「誰もが活力あるまち」の実現に向け、先駆的プロジェクトに取り組んでいます。気仙広域環境未来都市では、「五葉山のメガソーラー」、太平洋セメント(株)大船渡工場の「バイオマス発電」、社会福祉の取組みとして今後そのシステムが全国展開されるかもしれない「未来かなえ機構」といった取組みをされています。

環境未来都市として選定されているのは全国で11都市(内被災地枠6か所)

下川町(北海道)、柏市(千葉)、横浜市、富山市、北九州市、気仙広域、釜石市、岩沼市(宮城)、東松島市(宮城)、南相馬市(福島)、新地町(福島)

### 2. 再生可能エネルギーの取組みについて

環境未来都市の流れを受けてのプロジェクトとしてスタートした「海と山と人をつなぐ地域再生可能エネルギーシステム・大船渡プロジェクト」について概要のご説明をします。

#### ◆プロジェクトについて

- ・2014年度復興庁の新しい東北 モデル事業に選定いただき、初年度は助成金をいただき活動を推進
- ・活動に当たり、協議会を設立

構成：大船渡市、太平洋セメント(株)大船渡工場、大船渡市漁協、東北大学、リナジェン、リマテック東北(事務局) \*2年目から大船渡商工会議所にも参加いただきました。

#### ◆プロジェクトの目的

地域資源を活用し、メタン発酵技術を核に、電気だけではなく、熱も上手に創って使う地域再生可能エネルギーシステム「東北モデル」を構築すること。

#### ◆再生可能エネルギーの必要性について

- ① 世界的な課題である温室効果ガスの削減という観点
- ② 震災を機に、大規模集中型のエネルギーシステムの脆弱性が指摘されたこと  
→ 小規模分散型のエネルギーシステムの必要性(再生可能エネルギーが主)

#### ◆取組イメージ

地域資源(食品系廃棄物、畜産系廃棄物、下水汚泥)を原料に、メタン発酵(後述)によりガスを回収、そのガスで発電を行い、電気は売電し、発電の際の余熱を地域で活用するといったイメージ。

◆具体的な取組について

- ・地元企業へのヒアリング実施（30社：公共施設含む）  
バイオマス資源賦存量調査、エネルギー需要調査の実施
- ・下水処理場の敷地での実証試験  
原料提供でお世話になった企業

【1年目】

マイヤさん、岩手缶詰さん、岩手清流ファーム、市（下水汚泥）

【2年目】

綾里の集合住宅の皆様（一般家庭から出る生ごみを活用）マイヤさん、市（下水汚泥）  
住田町で農地をお借りし、エネルギー作物（ソルガム・イネ科のキビの一種）を栽培し、原料に活用

◆メタン発酵について

- ・メタン菌をペットとして飼うイメージ
- ・菌に有機物を与えると、発酵によりメタンガスを精製する
- ・タンクの中で30日間原料を滞留させる（今回は20日滞留も同時に実施）
- ・タンク内の温度は人の微熱の37℃程度

◆メタンガスについて

- ・CO<sub>2</sub>の20倍の温室効果がある
- ・人間の体内からも排出されている
- ・牛のゲップ（1日に100～200Lのメタンガスを排出）
- ・都市ガスの主成分はメタン（9割弱）

◆2014年～2016年継続した結果と現状の課題について

・課題

① 資源不足

気仙地域ということで、魚系の原料を見込んでいたが、地元のフィッシュミール工場との取り合いになることで、魚系を外したところ資源不足となった。

→ これについては装置の小型化で対応しています

② 事業として採算がとれていない

小型装置だと割高になるため、以下対応を検討中

- ・自社で装置開発を検討中
- ・発電をやめ、ガス利用に方向転換

蓄電池は高いが、ボンベで保管できるため、夏に作ったエネルギーを冬まで保管できる利点があります。

③ 消化液活用（成分・窒素、リン、カリウム）先未開拓

農業者との連携が必要ですが、自社で取り組むことも検討中

実はこの取り組みで、2015年3月1日（日）に商工会議所でシンポジウムを開催しました。その時に商工会代表として、齊藤会頭にパネリスト参加いただいたことがご縁で、当時の社長である高田がお誘いいただき、西ロータリーに入会させていただき、私の本日のお話しにつながっています。

そういう意味で、大船渡西ロータリークラブとは、縁の深いプロジェクトです！

